

富山のWA

話



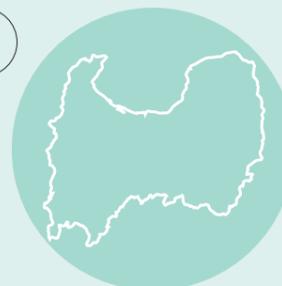
人との会話が膨らむ空間を中心に

環



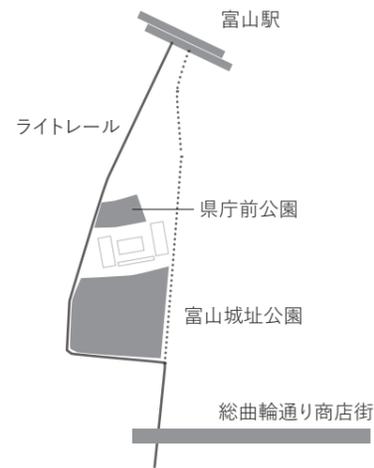
まちの中に循環がうまれ

輪



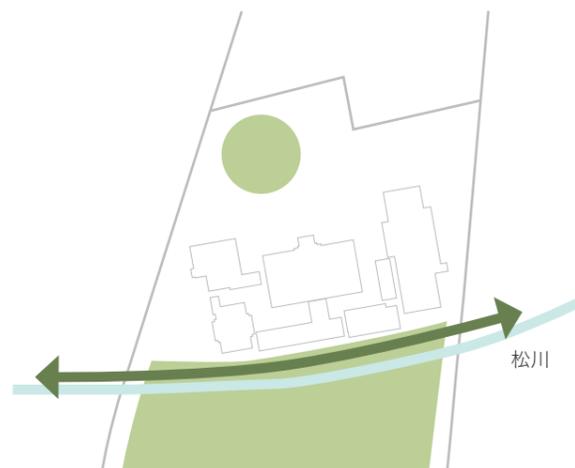
富山に関わる人の輪を広げていく

3つの「ありたい姿」と対象エリアの課題を元に、「富山のWA」というコンセプトを考案しました。
連続した公共空間を整備することにより、富山県のネットワークの中心として機能する空間を提案します。



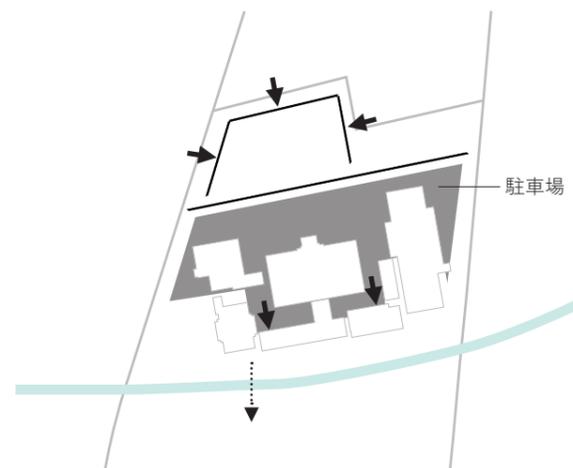
1. 対象エリア及び周辺の現状

- ・新幹線の停車する富山駅、大規模な都市公園、商店街など、人を惹きつける要素があります。
- ・各場所はライトレールで繋がるものの、歩行空間としては南北の繋がりが感じにくくなっています。



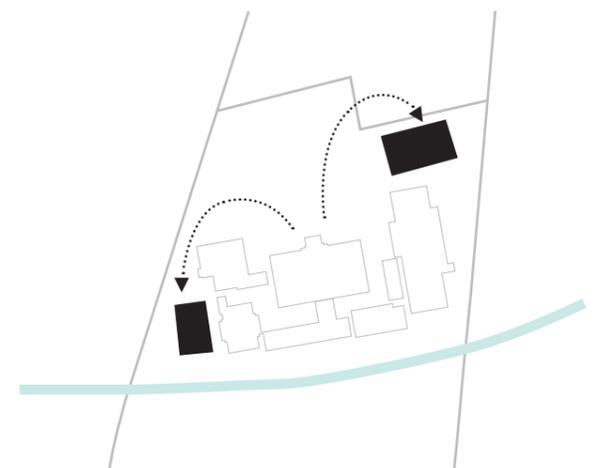
2. 対象エリアの魅力

- ・県庁前公園は、ビジネスマンの昼食場所など日常から県内外の人に親しまれています。
- ・富山城址公園に沿う松川では、桜並木や彫刻公園を含む遊歩道など、歩行空間が整備されています。



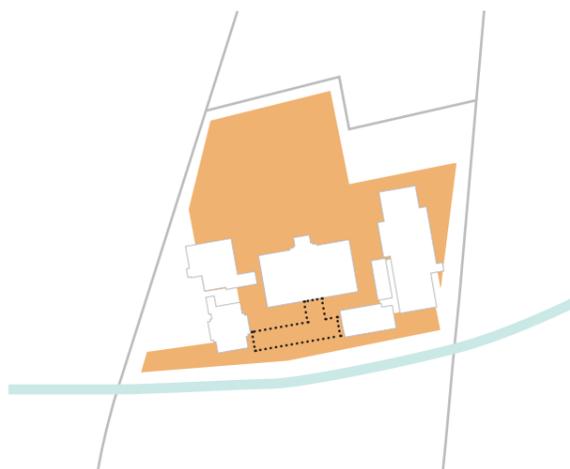
3. 対象エリアの主な課題

- ・駐車場が県庁周辺の大半を占めており、人が安らげるスペースが限られています。
- ・車道や既存の建築物、県庁前公園の柵などにより、移動に制限があります。



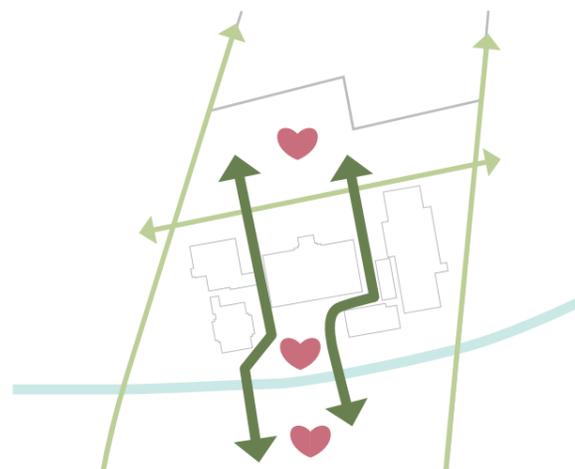
4. 立体駐車場の設置

- ・駐車スペースを対象エリアの角に設置することにより、エリア内の車の流入が最小限になります。
- ・レジャー、イベントスペースなど、歩行者が積極的に活用できる空間が広がります。



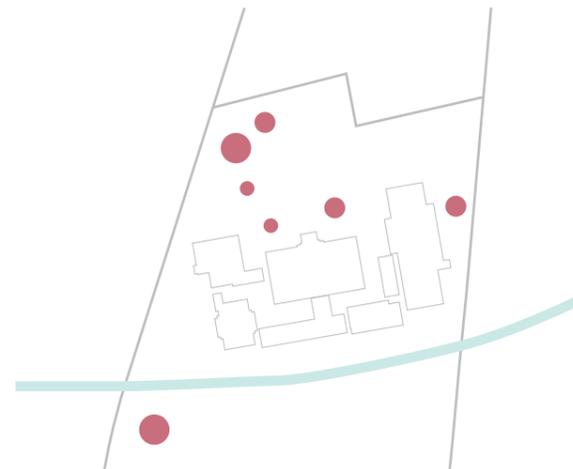
5. 歩行者空間の拡大

- ・県庁舎南別館を撤去することで、歩行者空間が松川・城址公園付近まで拡大します。
- ・防災危機管理センター横にオープンスペースができることで、災害時も柔軟な対応ができます。



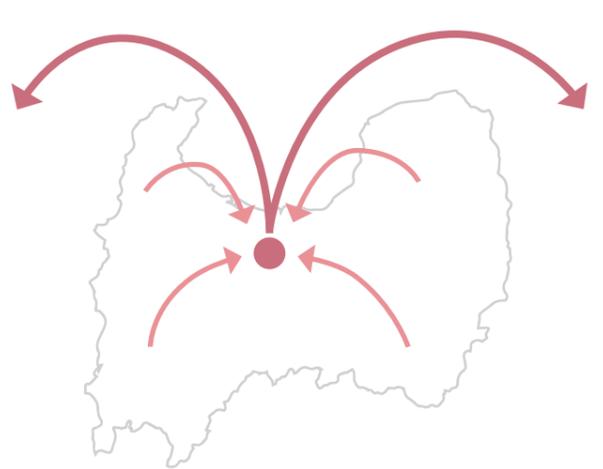
6. 富山城址公園とのつながり

- ・県庁舎南別館跡地前から城址公園にかけて新たな橋を架けることにより、県庁前公園周辺・県庁周辺・城址公園が一続きの歩行者空間となります。



7. 富山エキスポの常設

- ・富山県を代表する産業や文化、伝統工芸等について、「富山エキスポ」として対象エリア及び城址公園の一部に常設施設を点在させます。



8. 富山の繋がりの強化・拡大

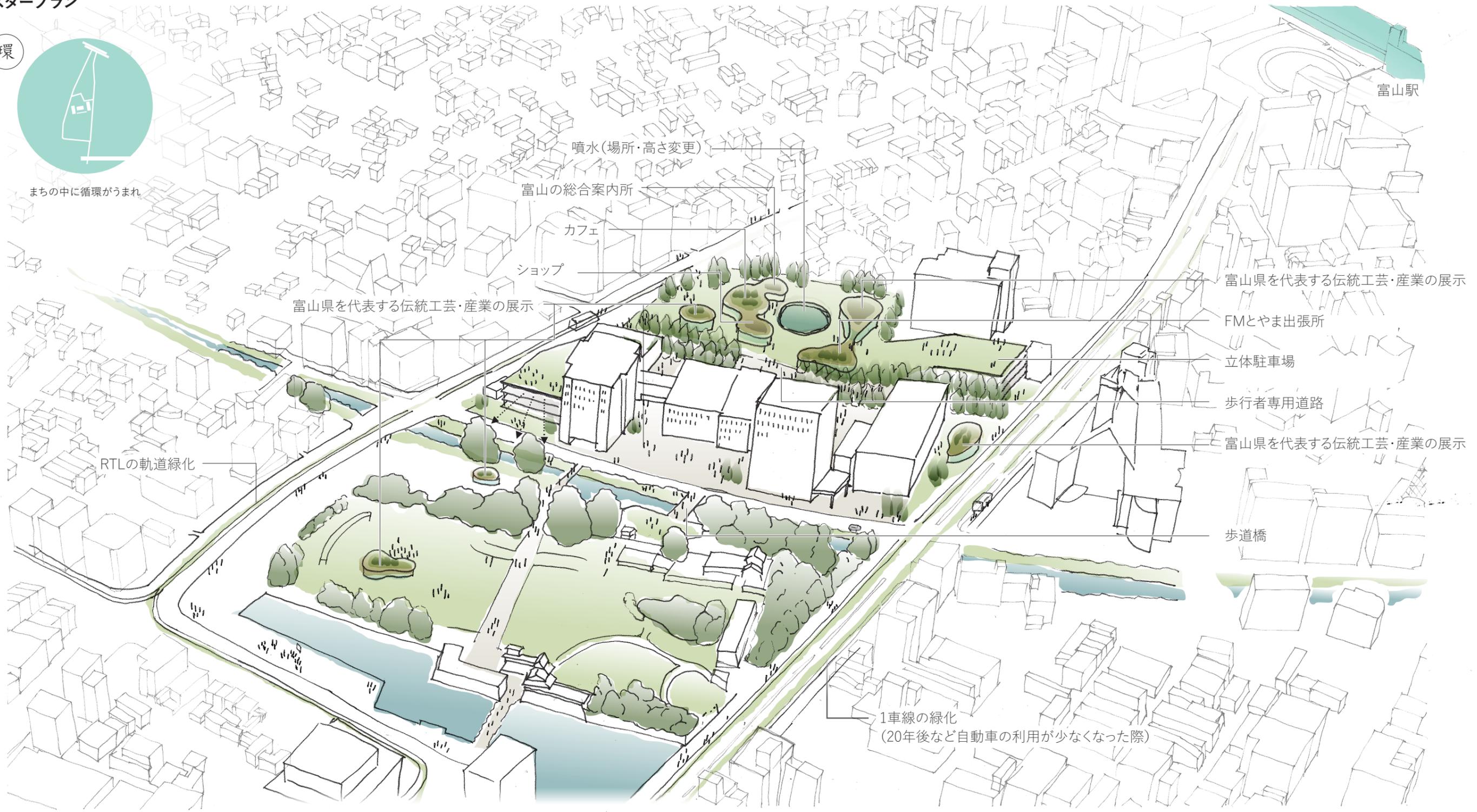
- ・県庁周辺エリアが、県外の人にとっては富山県の凝縮した魅力に触れる場所として、地域の人にとっては世界に触れる場所として機能します。

マスタープラン

環



まちの中に循環が生まれ



参考事例



オペラパーク(コペンハーゲン 写真: コーベ) 背面のない形態で空間全体を活用。公園+駐車場

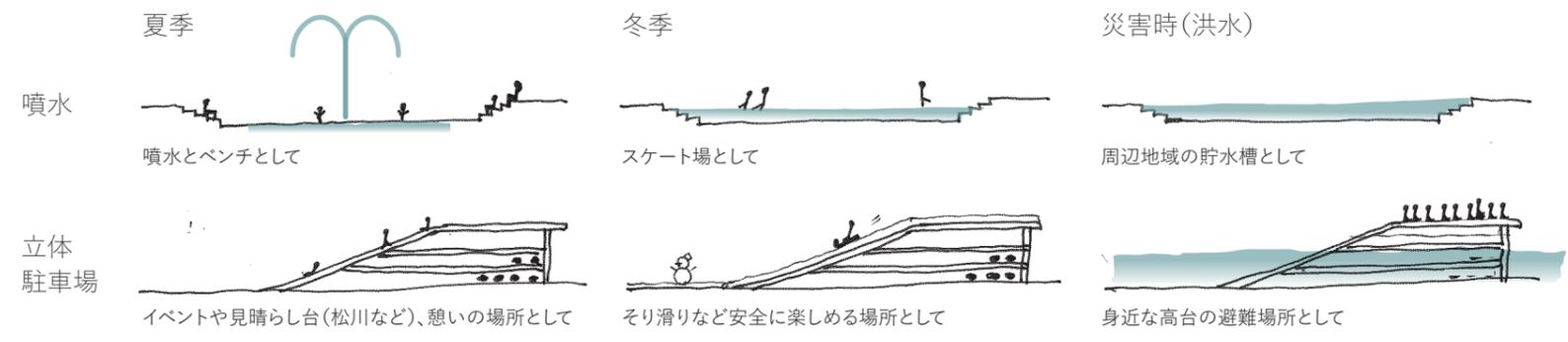


サンキタ広場(神戸 写真: 神戸観光局) エリアマネジメントを活用し賑わいを創出



横浜市庁舎(横浜市 画像: 三井不動産) 庁舎周辺を中心に周辺地域を活性化

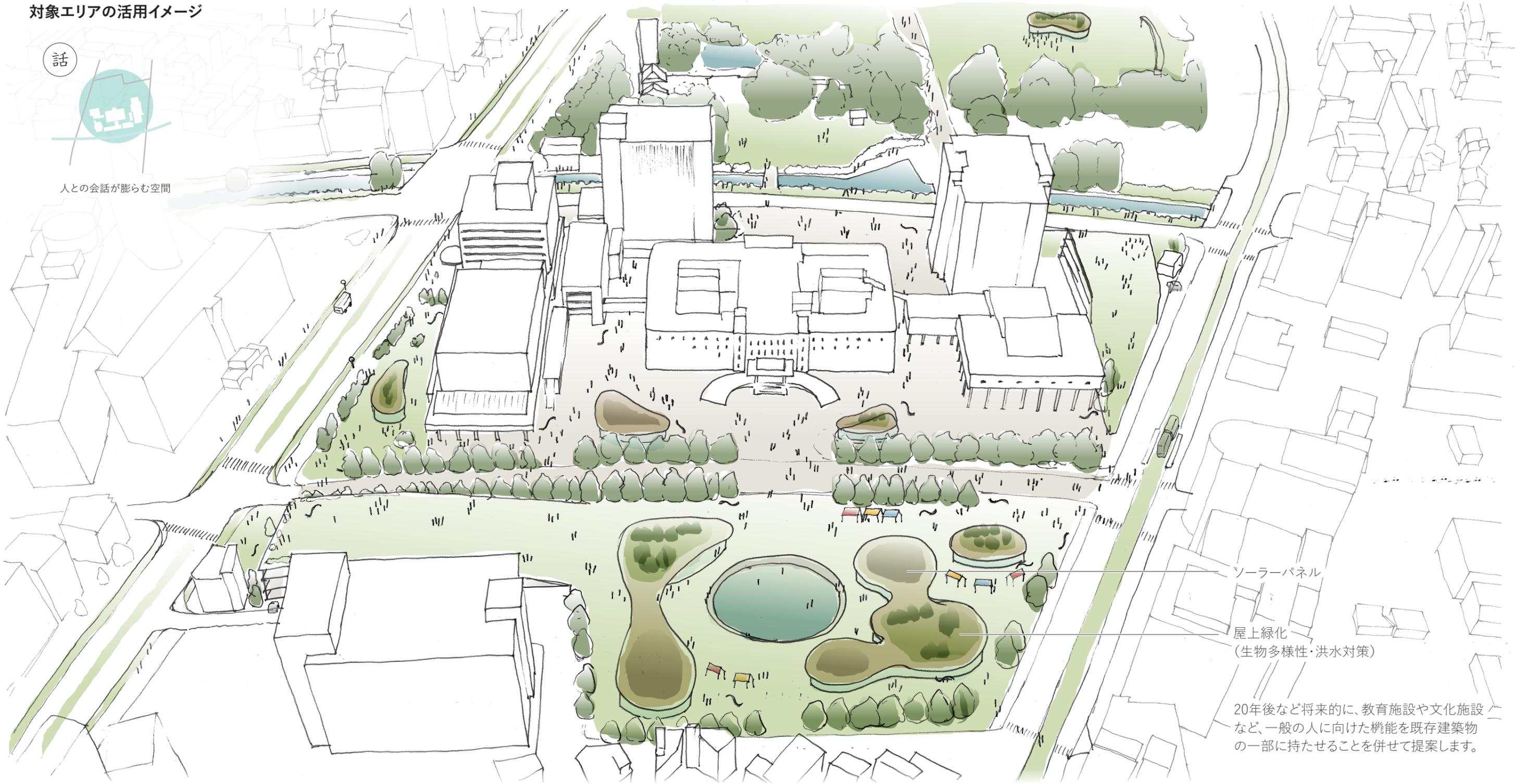
使用のシナリオ



対象エリアの活用イメージ

話

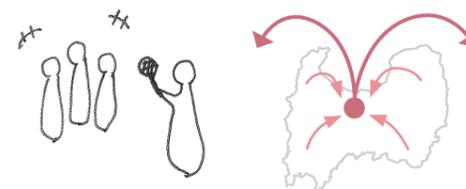
人との会話が膨らむ空間



展示品の事例 (写真:とやま観光ナビ・TOYAMA NETのホームページより)

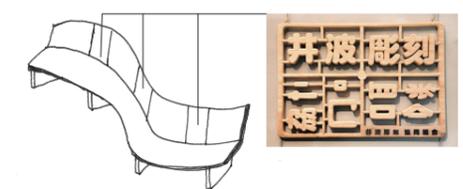


地域活性化の活動例



FMとやま出張所

地域の声や県庁周辺エリアのイベント等について、タイムリーに県内外に発信します。



エリアマネジメント広告+井波彫刻

商店街の店舗広告を県内の学生がデザインし、井波彫刻でベンチに施します。広告料は県庁周辺エリアの管理費となり、また、伝統技術の保全にも繋がります。

